

～ 戴帽式を終えて～



Nursing school news

第90回生
堀江 千都

戴帽式を終えて、改めて看護師になる決心と覚悟を持つことができた。京都第一赤十字看護専門学校に入学し、約半年が経った。日々の授業や演習、6月の初めての実習を通して、看護師という仕事の大変さ、役割の重大さを学んだ。患者さんの命を預かる看護師の仕事は、生半可な気持ちではできないものではない。自分の1つのミスが患者さんの命を危機に晒してしまうことがある。そんな看護師という仕事に就くためには、それ相当の努力と覚悟が必要だ。その大切さをこの半年で学び、今回の戴帽式で意志を固くすることができたと思う。

式の中で校長先生がおっしゃっていた「しがみついても看護師になって下さい」という言葉が私の頭の中に強く残っている。それだけ看護師という仕事は、素晴らしいものである

のだと思った。また、帰宅後、参列していた母がとても素晴らしい式だったと私に言ってくれた。周りの保護者の中には、涙を流されている方もいたと教えてくれた。新型コロナウイルスの影響で、一度も学校に入らず、入学式に参列できなかった両親に、ナースキャップを戴き、白衣を着た姿を見せられたことが私自身とても嬉しかった。まだ知識も技術もままならないが、少しでも成長した姿を、看護師になるという覚悟を見てもらい、さらに頑張ろうという気持ちを強く持つ貴重な機会となった。

コロナ禍でありながらも、こうして戴帽式を開催して頂いたことに感謝しつつ、これからも医療に携わる人間としての覚悟と責任を持ち、勉学に励んでいきたい。

